

社会教育主事に関する専門教育科目

授 業 科 目		必修	選択	計	備 考
生涯学習概論	生涯学習概論	4		4	
社会教育計画	社会教育計画	4		4	
社会教育演習、社会教育実習又は社会教育課題研究のうち一以上の科目	社会教育演習(情報検索演習)	4		2	
	社会教育演習(教育相談演習)			2	
社会教育特講 (現代社会と社会教育)	地球環境問題	2	2	2	
	青少年問題と社会教育		2	2	
	ライフステージと生活課題		2	2	
社会教育特講 (社会教育活動・事業・施設)	社会教育行政	2	2	2	
	図書館概論		2	2	
	ボランティア理論		2	2	
社会教育特講 (その他必要な科目)	社会との接続	8		2	
	社会福祉概論			2	
	教育心理学			2	
	社会心理学			2	
合 計		24	12	32	

科目名	生涯学習概論	授業回数	15	単位数	2	担当教員	福野 裕美
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : [e-mail] yfukuno@owc.ac.jp M棟 410 随時							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：生涯学習は、学校教育、家庭教育や社会教育における学習を含めた大きな広がりを持つ概念である。本講義では、生涯学習に関する以下の項目について基本的な知識を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習・社会教育の本質と意義 ・社会教育の法と行政および施策 ・学校教育・家庭教育等との関連 ・社会教育施設の役割と機能 ・専門的職員の役割 ・学習活動への支援のあり方 <p>学生の学習成果：専門的学習成果としては、上記の基礎的知識を修得する。汎用的学習成果としては、①コミュニケーション能力、②社会教育に携わることを志す者として自ら主体的に学ぶ姿勢や態度を涵養する。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義)・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主として講義形式で行うが、受講生の興味関心に応じて、グループディスカッションなどの活動を行うこともある。 ・受講者の理解を促進させるため、小テスト、課題を課す。 	<p>予習・復習</p> <p>1回の授業に対して予習・復習が義務付けられる。その内容については、毎回の授業でポイントを示す。</p>	<p>テキスト</p> <p>伊藤俊夫・国立教育政策研究所社会教育実践研究センター 『新訂 生涯学習概論』ぎょうせい、2010年。</p>			
成績評価の方法	<p>達成基準：以下の6つの項目について、同等の比重をかけて評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①生涯学習・社会教育の本質と意義を理解する。 ②社会教育の法と行政および施策について理解する。 ③学校教育・家庭教育等との関連について理解する。 ④社会教育施設の役割と機能を理解する。 ⑤専門的職員の役割、学習活動への支援のあり方について自分の意見を持つことができる。 ⑥他者の異なる視点からの意見も考慮した上で、自分の意見を表明することができる。 <p>学習評価は、試験 (60%)、小テスト・課題 (40%) によって行う。課題は授業中に提示する。なお、遅刻2回につき欠席1回とみなし、欠席1回につき減点1とする。また、授業態度に問題があった者も場合に応じて減点の対象とする。</p>						
注意事項	<p>参考図書等</p> <p>関口礼子他『新しい時代の生涯学習 [第2版]』有斐閣、2009年。 佐々木正治編著『生涯学習社会の構築』福村出版、2007年。 それ以外の図書については、授業中に随時紹介する。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	オリエンテーション 授業概要と評価方法、本講義のルールの説明 生涯学習とは何か 【予習】教科書 1-11 頁
2 回	生涯学習・生涯教育論の展開 【復習】教科書 1-11 頁 【予習】教科書 12-27 頁
3 回	生涯学習社会における家庭教育・学校教育・社会教育の役割と連携 【復習】教科書 12-27 頁
4 回	生涯学習と学校教育 【復習】配布プリント
5 回	生涯学習を支える学習機会 【復習】配布プリント
6 回	生涯学習振興施策の立案と推進 【復習】配布プリント 【予習】教科書 33-45 頁
7 回	わが国における社会教育の意義・発展・特質 【復習】教科書 33-45 頁 【予習】教科書 51-63 頁
8 回	社会教育行政の意義・役割と一般行政との連携 【復習】教科書 51-63 頁 【予習】教科書 64-69 頁
9 回	自治体の行財政制度と教育関連法規 【復習】教科書 64-69 頁 【予習】教科書 103-119 頁
10 ・ 11 回	社会教育の内容・方法・形態（学習情報の提供・学習相談） 【復習】教科書 103-119 頁
12 回	学習への支援と学習成果の評価と活用 【復習】配布プリント 【予習】教科書 85-101 頁
13 回	社会教育施設・生涯学習関連施設の役割と機能 【復習】教科書 85-101 頁 【予習】教科書 124-127 頁

14 回	社会教育指導者の役割 【復習】教科書 124-127 頁
15 回	全学習内容のまとめ

科目名	生涯学習概論 2nd (社会教育主事)	授業回数	15	単位数	2	担当教員	福野 裕美
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : [e-mail] yfukuno@owc.ac.jp M棟 410 随時							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：生涯学習について、以下の諸点に関する基礎的知識の定着を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の発達とその諸課題 2. 家庭・学校・地域社会における教育・学習活動 3. 生涯学習支援施設としての図書館の機能 4. まちづくりの理念、構造、方法、実践 <p>学生の学習成果：専門的学習成果として、上記の項目に関する基礎的知識や考え方を修得する。汎用的学習成果として、①専門的知識を使用して論理的に思考する力、②自分の考えを適切な表現で的確に伝えると同時に他者の考えを理解するコミュニケーション能力、③社会教育に携わることを志す者として、また一社会人として教育や地域づくりについて真摯に考える姿勢・態度、を涵養する。</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義、個人発表、および質疑応答を授業の主要な構成要素とする。 2. 各受講生（個人ないしグループ）が担当する箇所を決め、当該箇所について、受講生が作成したレジュメをもとに発表を行う。レジュメは早期に作成し、発表までに一度は担当教員のチェックを受けること。 3. 発表をもとに、質疑応答を行う。また、以上の内容を補う講義をする。 					
学習評価の方法	予習・復習	1回の授業に対して予習・復習が義務付けられる。その内容については、毎回の授業で示す。					
	テキスト	菅谷明子著『未来をつくる図書館』岩波書店、2003年。					
学習評価の方法	<p>以下の5つの学習成果について、おおよそ同等の比重をかけて評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①生涯学習の観点から、人間の発達とその諸課題について理解する。 ②生涯学習の観点から、家庭・学校・地域社会における教育・学習活動について理解する。 ③生涯学習支援施設としての図書館の機能を理解する。 ④生涯学習の観点から、まちづくりの理念、構造、方法、実践について理解する。 ⑤教科書の担当箇所について、ポイントを的確にとらえたレジュメを作成・発表できる。 <p>学習評価は、学期末試験（60%）、レジュメ発表（20%）、小テスト（20%）により行う。なお、遅刻2回につき欠席1回とみなし、欠席1回につき減点1とする。</p>						
注意事項	<p>参考図書等</p> <p>山本思外里著『大人たちの学校』中央公論新社、2001年。</p> <p>田村明著『まちづくりの実践』岩波書店、1999年。</p> <p>それ以外の図書については、授業中に随時紹介する。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	オリエンテーション：授業概要と評価方法を説明 前期「生涯学習概論 1st」の復習
2 回	発達段階に応じた学習 ・人生の発達段階に応じた学習について考える。 レジュメ作成の手順・発表への心得 【復習】配布プリント 【予習】『大人たちの学校』1-64 頁
3 回	成人の学習について考える（1） ・学習を愉しむ（第1章） ・何を学ぶのか（第2章） 【復習】『大人たちの学校』1-64 頁 【予習】『大人たちの学校』65-135 頁
4 回	成人の学習について考える（2） ・「習う」から「教える」へ（第3章） ・カルチャーセンターと生涯学習行政（第4章） 【復習】『大人たちの学校』65-135 頁 【予習】『大人たちの学校』137-170 頁
5 回	成人の学習について考える（3） ・新しい教養人の誕生（第5章） 【復習】『大人たちの学校』137-170 頁 【予習】『未来をつくる図書館』1-23 頁
6 回	図書館の持つ可能性を探る（1） ・図書館で夢をかなえた人々（序章） 【復習】『未来をつくる図書館』1-23 頁 【予習】『未来をつくる図書館』25-90 頁
7 回	図書館の持つ可能性を探る（2） ・新しいビジネスを芽吹かせる（第1章） ・芸術を支え、育てる（第2章） 【復習】『未来をつくる図書館』25-90 頁 【予習】『未来をつくる図書館』91-149 頁
8 回	図書館の持つ可能性を探る（3） ・市民と地域の活力源（第3章） 【復習】『未来をつくる図書館』91-149 頁 【予習】『未来をつくる図書館』151-217 頁

9 回	<p>図書館の持つ可能性を探る（４）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館運営の舞台裏（第４章） ・インターネット時代に問われる役割（第５章） <p>【復習】『未来をつくる図書館』151-217 頁 【予習】『未来をつくる図書館』219-230 頁</p>
10 回	<p>図書館の持つ可能性を探る（５）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の図書館を「進化」させるために <p>【復習】『未来をつくる図書館』219-230 頁 【予習】『まちづくりの実践』1-51 頁</p>
11 回	<p>まちづくりについて考える（１）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の「まちづくり」（序章） ・「まちづくり」の実践（第１章） <p>【復習】『まちづくりの実践』1-51 頁 【予習】『まちづくりの実践』53-118 頁</p>
12 回	<p>まちづくりについて考える（２）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の価値発見（第２章） ・価値の創造（第３章） <p>【復習】『まちづくりの実践』53-118 頁 【予習】『まちづくりの実践』119-162 頁</p>
13 回	<p>まちづくりについて考える（３）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰が「まち」をつくるのか（第４章） ・「まちづくり」の構造（第５章） <p>【復習】『まちづくりの実践』119-162 頁 【予習】『まちづくりの実践』163-206 頁</p>
14 回	<p>まちづくりについて考える（４）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まちづくり」の実践のヒトとシクミ（第６章） ・「まちづくり」の実践の力（第７章） <p>【復習】『まちづくりの実践』163-206 頁</p>
15 回	<p>まとめ:これまでの学習内容の総復習</p>

科目名	社会教育計画 1st (社会教育主事)	授業回数	15	単位数	2	担当教員	福野 裕美		
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : [e-mail] yfukuno@owc.ac.jp M棟 410 随時									
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：</p> <p>「生涯学習社会」において、住民の主体的学習を保障・支援するためにどのような社会教育計画が求められているのか。本講義では、政策レベルから個別の学習プログラムに及ぶ社会教育計画の理論と実践について、以下のような基礎的知識の定着を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習推進施策の意義と体系 ・多様な学習者の特性、学習支援者の役割 ・学習情報の提供、学習相談の意義 ・生涯学習の観点からのまちづくり <p>学生の学習成果：</p> <p>専門的学習成果としては、社会教育計画に関する上記の基礎的知識を理解・修得する。汎用的学習成果としては、論理的思考力、他者理解力を身につける。</p>								
	教育	授業の進め方	<p>(講義)・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主として講義形式によって行う。受講生の興味関心に応じてグループディスカッション等の活動を行うこともある。 ・受講者の理解を促進するために、講義中に小テストを課す。 ・授業時間外に取り組むレポート課題を課す。 					方法	予習・復習
	テキスト	佐々木正治編著『生涯学習社会の構築』福村出版、2007年。							
学習評価の方法	<p>達成基準：以下の学習成果について、おおよそ同等の比重をかけて評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①生涯学習推進施策の意義と体系について基礎的知識を修得する。 ②様々な学習者の特性、学習支援者の役割を理解する。 ③学習情報の提供、学習相談の意義を理解し、現状と課題を認識する。 ④生涯学習の観点からのまちづくりの現状と課題を認識する。 <p>学習評価は、最終試験 (60%)、小テスト (20%)、課題 (20%) によって評価する。課題は授業中に提示する。なお、遅刻 2 回につき欠席 1 回とみなし、欠席 1 回につき減点 1 とする。</p>								
注意事項	<p>参考図書等</p> <p>関口礼子・小池源吾他著『新しい時代の生涯学習 (第 2 版)』有斐閣アルマ、2009 年。</p> <p>そのほか、授業中に適宜紹介する。</p>								

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	オリエンテーション ・講義概要と評価方法の説明
2 回	生涯学習推進計画と社会教育計画とのかかわり 【復習】配布プリント
3 回	生涯学習推進計画の企画・立案の概要 【復習】配布プリント
4 回	生涯学習推進の組織、推進体制 【復習】配布プリント
5 回	生涯学習と学習者（1） ノールズのアンドラゴジー論を中心に、成人学習者の特性および課題について考える。 【復習】教科書 83-89 頁
6 回	生涯学習と学習者（2） 学習者の中でも特に生涯学習の完成期にあたる高齢者の特性および課題について考える。 【復習】教科書 90-94 頁
7 回	生涯学習と支援者・指導者（1） 生涯学習における支援者・指導者の位置づけや、学習活動の進展に応じた役割について考える。 【復習】教科書 95-102 頁
8 回	生涯学習と支援者・指導者（2） 支援者・指導者の類型と養成・研修について学ぶ。 【復習】教科書 102-108 頁
9 回	生涯学習と指導者・支援者（3） 社会教育主事に何が期待されているのか。高度化する社会教育主事養成について学ぶ。 【復習】配布プリント

10 回	生涯学習情報の提供と学習相談（1） 学習情報とは何か、学習情報提供の動向について学ぶ。 【復習】教科書 162-170 頁
11 回	生涯学習情報の提供と学習相談（2） 情報社会における学習情報の内容や方法について学び、学習情報提供と学習相談の課題を考える。 【復習】教科書 170-176 頁
12 回	生涯学習のまちづくり施策の展開（1） 生涯学習のまちづくりの展開について、1週目は各種答申をもとに行政施策の歴史と概要を学ぶ。二週目は具体事例に基づき、地域レベルでのまちづくりの現状と課題を考える。 【復習】教科書 57-63 頁、配布プリント
13 回	生涯学習のまちづくり施策の展開（2） 生涯学習のまちづくりの展開について、具体事例に基づき、地域レベルでのまちづくりの現状と課題を考える。 【復習】教科書 63-69 頁、配布プリント
14 回	生涯学習成果の評価と認証 【復習】教科書 177-191 頁
15 回	まとめ：これまでの授業内容の総復習

科目名	社会教育計画 2nd (社会教育主事)	授業回数	15	単位数	2	担当教員	福野 裕美
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : [e-mail] yfukuno@owc.ac.jp M棟 410 随時							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>前期「社会教育計画」で学んだ基礎的知識をもとに、より具体的な学習プログラムを企画立案・運営するための実践的な力量を育成する。</p> <p>学生の学習成果 :</p> <p>専門的学習成果としては、学習プログラムの企画・立案、実施の具体的手法を修得する。汎用的学習成果としては、①コミュニケーション能力、②他者の主体的学習を支援する社会教育関係者としてふさわしい態度や自己管理能力を身につける。</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義と参加型学習を組み合わせながら行う。 ・授業中に課題を出し、授業時間を複数回使って取り組む。 					
成績評価の方法	予習・復習	<ul style="list-style-type: none"> ・1回の授業に対して予習・復習が必要である。その内容は毎回の授業で示す。 ・課題遂行のため、授業時間外に各自で調べ物をし、作業を進めることを求める。 					
	テキスト	特に定めない					
注意事項	<p>達成基準：下記の項目について、同等の比重をかけて評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育調査に関する基礎的知識を修得する。 ・学習プログラムの企画立案・運営・評価に関する基本的知識を修得する。 ・アンケートを作成することができる。 ・学習プログラムを作成することができる。 ・参加型学習の意義について理解し、いくつかの手法を実践することができる。 <p>学習評価は、期末試験 (50%)、課題 (50%) によって行う。なお、受講者の興味関心に応じて、課題の内容は変更される場合がある。</p> <p>遅刻 2 回につき欠席 1 回とみなし、欠席は 1 回につき減点 1 とする。</p> <p>正当な理由なく提出物が遅れた場合についても減点 1 とする。</p> <p>参考図書等 廣瀬隆人他『生涯学習支援のための参加型学習のすすめ方～「参加」から「参画」へ～』ぎょうせい、2000 年。 それ以外の図書については、授業中に随時紹介する。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション：講義概要と評価方法の説明 ・前期「社会教育計画」の復習
2 回	社会教育調査（1）～社会教育調査とは何か、調査方法の概要～ 【復習】 配布プリント 【課題】 インターネット等を利用して、アンケートの具体例を収集する。
3 ～ 5 回	社会教育調査（2）（3）（4）～アンケート作成～ 【復習】 配布プリント 【課題】 授業中の指摘を踏まえてアンケートを修正する。
6 回	学習プログラムの「企画・立案」力 【復習】 参考図書 14-19 頁
7 回	学習プログラムの「デザイン」力（1） 【復習】 参考図書 20-25 頁
8 回	学習プログラムの「デザイン」力（2） 【復習】 参考図書 26-43 頁
9 回	参加型学習のすすめ方 【復習】 参考図書 46-63 頁
10 回	参加型学習アクティビティの展開（1）～ディベート、KJ法、ブレインストーミング等～ 【復習】 参考図書 64-71 頁
11 回	参加型学習アクティビティの展開（2）～ロールプレイ、フィールドワーク、シミュレーション、アイスブレイク等～ 【復習】 参考図書 72-91 頁

12 回	<p>学習プログラムの作成（1）～学習プログラムの企画・立案の視点・手順の概要～</p> <p>【予習】県や市、公民館等の広報紙やインターネットを用いて、どのような学習プログラムが実施されているかを調べる。</p> <p>【課題】・各自が関心のある学習プログラムを作成する。 ・自治体の生涯学習推進計画や社会教育計画、各種データを収集する。</p>
13 回	<p>学習プログラムの作成（2）</p> <p>【課題】授業中の指摘を踏まえて、学習プログラムを修正する。</p>
14 回	<p>学習プログラムの作成（3）～学習プログラムの発表・質疑応答～</p> <p>【復習】配布プリント</p>
15 回	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習社会実現にむけた社会教育計画、魅力的な学習プログラムとは ・まとめ：これまでの学習内容の総復習

科目名	社会教育演習(情報検索演習)	授業回数	15	単位数	2	担当教員	正司 和彦
質問受付の方法 (e-mail、オフィスアワー等) : e-mail:showji@owc.ac.jp							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標</p> <p>社会教育を行うのに必要なコンピュータとインターネットを利用した情報検索能力の獲得を目的として、以下に示す内容の形成を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 コンピュータとインターネットおよび情報検索システムに関する知識 2 情報源と情報流通に関する知識 3 情報検索手順に関する知識と技術 4 検索対象にアクセスし検索する技術 <p>学生の学習成果</p> <p>教育目標に掲げた情報検索に関する知識および技術を獲得する。また、社会人・職業人として必要となる自己管理能力・倫理観を獲得する。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義、<u>演習</u>、実験、実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報検索における基礎知識の習得を目的に、テキストに沿って講義する ・演習では、適宜課題を出し、検索能力の定着を図る。 	<p>予習・復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎授業回前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 ・毎授業回に講義内容や演習の見直しやまとめの復習を求める 	<p>テキスト</p> <p>緑川信之 編著『新訂情報検索演習』、東京書籍</p>			
学習評価の方法	<p>以下の項目についてその獲得度合いを評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 コンピュータ、インターネットおよび情報検索システムの仕組みについて理解している。 2 検索対象の特性と内容について理解している。 3 検索手順に従って効率の良い検索が実行できる。 4 図書や雑誌記事から必要な情報を検索できる。 <p>評価の実施は、上記1～4の理解についての学期末定期試験の結果と予習・復習の実施度と上記1～4の演習課題の結果とを4：1：5の割合で評価点を出す。自己管理能力・倫理観については受講態度に問題がある旨の注意1回につき2点を、また欠席は1回につき2点を評価点から減ずる。</p>						
注意事項							

授 業 回 数 別 教 育 内 容

1 回	<p>オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業概要の説明 ・ 学習成果、学習評価方法の説明 <p>情報社会と情報検索</p> <p>復習：授業内容を振り返る。</p>
2 回	<p>情報検索の概要</p> <p>予習：テキストを通読する。</p> <p>復習：テキストを見直して講義内容の要点を理解する。</p>
3 回	<p>演習：テキスト第1章の演習問題</p> <p>予習：テキストを通読する。</p> <p>復習：テキストを見直して講義内容の要点を理解する。</p>
4 回	<p>図書の検索</p> <p>予習：テキストを通読する。</p> <p>復習：テキストを見直して講義内容の要点を理解する。</p>
5 回	<p>演習：テキスト第2章の演習問題</p> <p>予習：テキストを通読する。</p> <p>復習：テキストを見直して講義内容の要点を理解する。</p>
6 回	<p>雑誌論文の検索</p> <p>予習：テキストを通読する。</p> <p>復習：テキストを見直して講義内容の要点を理解する。</p>
7 回	<p>演習：テキスト第3章の演習問題</p> <p>予習：テキストを通読する。</p> <p>復習：テキストを見直して講義内容の要点を理解する。</p>
8 回	<p>サーチエンジン</p> <p>予習：テキストを通読する。</p> <p>復習：テキストを見直して講義内容の要点を理解する。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

9 回	<p>演習：テキスト第4章の演習問題</p> <p>予習：テキストを通読する。 復習：テキストを見直して講義内容の要点を理解する。</p>
10 回	<p>情報検索の実際</p> <p>予習：テキストを通読する。 復習：テキストを見直して講義内容の要点を理解する。</p>
11 回	<p>演習：テキスト第5章の演習問題</p> <p>予習：テキストを通読する。 復習：テキストを見直して講義内容の要点を理解する。</p>
12 回	<p>シソーラスの利用</p> <p>予習：テキストを通読する。 復習：テキストを見直して講義内容の要点を理解する。</p>
13 回	<p>検索システムの仕組み</p> <p>予習：テキストを通読する。 復習：テキストを見直して講義内容の要点を理解する。</p>
14 回	<p>機器構成と利用法</p> <p>予習：テキストを通読する。 復習：テキストを見直して講義内容の要点を理解する。</p>
15 回	<p>これまでの授業の振り返りとまとめ</p> <p>予習：テキストに目を通しこれまでの授業内容を整理する。 復習：これまでの授業内容のまとめ</p>

科目名	社会教育演習 (教育相談演習)	授業回数	15	単位数	2	担当教員	竹中 一平
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : takenaka@owc.ac.jp, OH:土曜 2,3 限							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標： 学校教育における実効ある教育相談の進め方について、実務的な演習を行いながら学ぶことを目標とする。</p> <p>学生の学習成果：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校教育における教育相談の位置づけと意義が分かる ・ 児童生徒相互の好ましい人間関係を育てる予防的心理教育の方法を身につける ・ 児童生徒の問題行動をどのようにアセスメントするか分かる ・ 教育相談を行う教師としての使命感や倫理観を身につける 						
教育方法	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主として演習形式で授業を進める。 ・ 具体的には、模擬面接やディスカッション、レポートの執筆などを通して、学校教育において、現実に教育相談を進められるようになるために、問題解決型の学習を進める。 ・ 課題と演習が多いため、積極的な受講姿勢が求められる。 					
	予習・復習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予習：各回のテーマで教育相談の模擬演習を行うため、十分に心構えをして参加すること ・ 復習：15回の授業終了後に、全体をまとめたレポートを提出するため、各回の学習内容を踏まえて徐々にレポートを作成しておくこと 					
	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料を配布する 					
学習評価の方法	<p>以下の4つの学習成果について、その獲得度合を量的に評価する。その際、授業回数を勘案し、およそ①30%、②40%、③20%、④10%の比重をかける。</p> <p>① 学校教育における教育相談の位置づけと意義を理解する</p> <p>② 児童生徒相互の好ましい人間関係を育てる予防的心理教育の方法を身につける</p> <p>③ 児童生徒の問題行動をどのようにアセスメントするか分かる</p> <p>④ 教育相談を行う教師としての使命感や倫理観を身につける</p> <p>なお、評価の実施は、授業で行う課題及び最終レポートの内容を総合して行う。 受講態度に問題があったものは、教師としての使命感や倫理観が十分ではないとして、④の比重から適宜減点する。</p>						
注意事項	<p>参考図書等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一丸藤太郎・菅野信夫 (2002). 学校教育相談 ミネルヴァ書房 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育相談の講義を受講していることを履修の条件とする 						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>【オリエンテーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義の目標・進め方・成績評価の方法に関する説明 ・ 本講義で修得してほしい事柄に関する説明 ・ 教育相談の目的 <p>復習事項：講義内容で理解不十分な箇所・不明な箇所をまとめてくる</p>
2 回	<p>【学校教育の教育課程における「生徒指導」と「教育相談」の位置づけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒指導場面と教育相談場面の違いについて、模擬面接を実施し理解する <p>予習事項：人前でしゃべるための心構えをしておく</p> <p>復習事項：生徒指導と教育相談の違いに注目し、本日の内容についてレポートを作成する</p>
3 回	<p>【人間関係を育てるソーシャルスキルトレーニング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ソーシャルスキルトレーニング (SST) を実施する <p>予習事項：人前でしゃべるための心構えをしておく</p> <p>復習事項：SSTの一連の流れと効果についてまとめたレポートを作成する</p>
4 回	<p>【ストレスマネジメント教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自律訓練法の実習を行う <p>予習事項：自分自身のストレスマネジメントについてまとめておく</p> <p>復習事項：児童生徒へのストレス教育を踏まえ、本日の内容についてレポートを作成する</p>
5 回	<p>【児童生徒の理解を深めるには（実態把握のアセスメント）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒の実態把握のためのインタビュー面接について、模擬面接を行う <p>予習事項：人前でしゃべるための心構えをしておく</p> <p>復習事項：カウンセリングの一連の流れについてまとめたレポートを作成する</p>
6 回	<p>【「不登校」と「ひきこもり」の理解と対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 行動療法と系統的脱感作法について実習を行う <p>予習事項：第5回に配布した資料を使いリラクゼーション技法の練習をしておく</p> <p>復習事項：行動療法を用いた不登校への対処についてレポートを作成する</p>
7 回	<p>【「いじめ」の理解と対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いじめに対する介入について、いくつかの場面を設定した実習を行う <p>予習事項：第6回に配布した資料を読みいじめの場面について自分の考えをまとめておく</p> <p>復習事項：教育相談の観点からのいじめに対する対処についてレポートを作成する</p>
8 回	<p>【学校教育の実際と教育相談 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校教育の事例についてディスカッションを行う <p>予習事項：第7回に配布した資料を読み自分の考えを公表できるようにまとめておく</p> <p>復習事項：本日の内容についてレポートを作成する</p>
9 回	<p>【学校教育の実際と教育相談 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校教育の事例についてディスカッションを行う <p>予習事項：第8回に配布した資料を読み自分の考えを公表できるようにまとめておく</p> <p>復習事項：本日の内容についてレポートを作成する</p>

10 回	<p>【学校教育の実際と教育相談3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育の事例についてディスカッションを行う <p>予習事項：第8回に配布した資料を読み自分の考えを発表できるようにまとめておく</p> <p>復習事項：本日の内容についてレポートを作成する</p>
11 回	<p>【教育相談の組織運営と年間計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談の年間計画について、実際に計画を考えながら学ぶ <p>予習事項：年間の教育相談業務にどのようなものがあるか調べておく</p> <p>復習事項：授業において作成した年間計画を清書し仕上げる</p>
12 回	<p>【発達障害(LD, AD/HD, 高機能自閉症等) の理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達障害に関するDVDを視聴する <p>予習事項：LD、AD/HD、自閉症の3種類の発達障害について概要を調べておく</p> <p>復習事項：視聴したDVDの内容についてまとめたレポートを作成する</p>
13 回	<p>【特別支援教育における「個別の指導計画」の作成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育に関する指導計画の立案を行う <p>予習事項：第12回の授業を参考にし、3種類の発達障害のうち1つに絞って指導計画を考えておく</p> <p>復習事項：授業において作成した指導計画を清書し仕上げる</p>
14 回	<p>【保護者との相談の進め方（家庭訪問のポイント）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問における保護者との相談について模擬面接を行う <p>予習事項：自分自身の親に対して、教師による家庭訪問の様子尋ねておく</p> <p>復習事項：本日の内容についてレポートを作成する</p>
15 回	<p>【まとめと討論】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談の意義についてディスカッションを行う

科目名	地球環境問題	授業回数	15	単位数	2	担当教員	池ノ内 昌弘
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : ikeuchim@owc.ac.jp、 水曜日以外の午後 D204							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：</p> <p>21世紀に生きる私達人類に共通する課題として「地球環境問題」を取り上げ、自己の地球市民としての見識を高揚することを目的とする。環境問題を世界の人々、その活動に目を向け考えると共に、身近なところで環境を考え行動していき、地球にやさしい暮らし、社会活動を行う力を育成する。</p> <p>学生の学習成果：</p> <p>環境問題を概念的に捉える能力、解決策を企画・提案する力、環境保全に向けた行動力、環境に配慮した社会活動態様を身に付ける。</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>環境問題の概論の講義より環境問題の本質の理解を図る。各論について講義と受講者との対話により理解を深めるとともに、学習成果をまとめ、グループ発表・ディスカッションを併せ行う。受講生はグループを構成し、テーマを選び、その内容について資料収集・分析する。グループ内でディスカッションしてレポートにまとめ、発表する。担当教員が講評を行い、各テーマのポイント、補足事項を講義して理解を深める。また、ビデオ等視聴覚による理解、簡易な実験等体験学習も適宜入れる。</p>					
予習・復習	<p>各回において、次回授業のテーマに関する資料収集及びテーマの本質を分析、検討した結果をまとめ予習しておく。授業後、講義やグループ発表の内容についてのグループディスカッション、問題点の復習をする。各グループは、与えられたテーマについて事前調査、分析、まとめを発表の時期に合わせて進める。</p>						
	テキスト	<p>稲生 勝、岩佐 茂、大日方聡夫、吉埜和雄：2009、第2版『環境リテラシー』、リベelta出版 及び、プリント</p>					
学習評価の方法	<p>到達基準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境問題の本質を理解する 2. 地球環境問題、地域環境問題の現象・原因・対策を理解する 3. 環境問題に対処する自らの行動を示す <p>評価方法</p> <p>環境問題についての認識度・思考過程を主として評価対象とする。 期末試験 (70%)、レポート (資料収集・分析) (10%)、発表・討論等アクティビティ (20%) を評価して、総合得点が 60 点以上とする。欠席 2 回目から 1 回につき 2 点減点する。</p>						
注意事項	<p>自然への関心、大切にすることを期して授業に臨むことを期待する。 学習のポイントは、環境問題の本質を見失わないこと。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	【オリエンテーション】本科目の教育目標についてシラバスを中心に説明し、全授業回数の授業内容・授業の進め方を明らかにする。地球環境問題、身近な環境問題を概説し、学習の方向付けを行う。
2 回	テーマ:生物がつくり変えた地球環境 「物質循環・エネルギーと環境」「自然史の壮大な循環ドラマ」「循環を機軸とする社会」を考える。
3 回	テーマ:地球規模の環境破壊（1） 「地球温暖化はすでに始まっている」について学ぶとともにディスカッションする。
4 回	テーマ:地球規模の環境破壊（2） 「地球の大気とオゾン層の破壊」「危機に瀕する「水惑星」」について学びディスカッションする。
5 回	テーマ:地球規模の環境破壊（3） 「木を枯らし、土を壊す酸性雨」「母なる海」の汚染」「森林の価値と破壊」「生物の多様性とその危機」について学びディスカッションする。
6 回	テーマ:地球規模の環境破壊（4） 「豊かな大地の形成と砂漠化」「戦争は最大の環境破壊」について学びディスカッションする。
7 回	テーマ:地球の環境破壊としての公害（1） 「高度経済成長がもたらした公害」「工場とクルマが起こした大気汚染」「土と水を汚染するハイテク」について学びディスカッションする。
8 回	テーマ:地球の環境破壊としての公害（2） 「種の存続を脅かす環境ホルモン」「食の安全と環境」について学びディスカッションする。

9 回	<p>テーマ:地球の環境破壊としての公害(3)</p> <p>「失われる日本の自然環境」「安らぎを奪う騒音公害」について学びディスカッションする。</p>
10 回	<p>テーマ:経済活動のなかの環境問題(1)</p> <p>「工業化がもたらした深刻な環境破壊」「大規模開発による生態系の破壊」「エネルギーと環境問題」について学びディスカッションする。</p>
11 回	<p>テーマ:経済活動のなかの環境問題(2)</p> <p>「環境問題としての廃棄物」について学びディスカッションする。併せて、簡易な体験学習を行う。</p>
12 回	<p>テーマ:経済活動のなかの環境問題(3)</p> <p>「持続可能な社会の実現に向けて」について学びディスカッションする。併せて、ビデオ鑑賞による学習を行う。</p>
13 回	<p>テーマ:環境保全に向けて(1)</p> <p>「市場経済と環境問題」「国連の取り組み」「日本の環境政策のあゆみと現状」について学びディスカッションする。</p>
14 回	<p>テーマ:環境保全に向けて(2)</p> <p>「環境先進国の取り組み」「国際的なルールづくり」「環境権思想から環境法体系へ」「環境保全を支える環境意識」について学びディスカッションする。</p>
15 回	<p>グループ発表</p> <p>グループで調査・分析・ディスカッションしてきたことをまとめて発表し、全員で議論して、環境問題解決に向けた意識・行動の共有を確認する。</p>

科目名	青少年と社会教育	授業回数	15	単位数	2	担当教員	尾崎聡
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : osaki@owc.ac.jp							
教育目標と学生の学習成果	<p>【教育目標】 ライフステージにおける青少年期、社会教育における青少年育成問題について知ることを目標とする</p> <p>【学生の学習成果】 ①専門的学習成果：社会教育にたずさわる者としての青少年問題にする基本的な「知識・理解」が身につく ②汎用的学習成果：社会人として生きていくうえでの「価値観・意見・信念・態度」が身につく</p>						
	授業の進め方	<p>(講義) 担当教員が準備し、進行させていく講義であるが、社会教育主事任用資格取得に特化された受講者なので対話によって各自の頭脳を活性化させながら進めていく。また毎回、積極的に画像・図像、映像を使って立体的に理解を補っていく。</p>					
教育方法	予習・復習	1回の授業に対して予習・復習が義務付けられる。その内容については毎回の授業でポイントを示す					
	テキスト	特にテキストは指定しないが、毎回参考資料をプリントで配布する。					
学習評価の方法	<p>【達成基準】 ① 青少年問題について概観できるようになっていること ② 青少年というステージに関して、社会教育的な観点から、適切な題材を自らの力で選び、テーマ設定できるようになっていること</p> <p>以上を試験における論述で証明すること。論述は以下の観点から採点する</p> <p>1. 社会科学性 (すなわち思考の客観性、社会的な関心性) 題材の選び方・題材の切り口 (秀逸・良し・普通・やや不満・不満)。 記述内容 (秀逸・良し・普通・やや不満・不満)。</p> <p>2. 人間学性 (思考の個性、主体性、内面性) 題材の選び方・題材の切り口 (秀逸・良し・普通・やや不満・不満)。 記述内容 (秀逸・良し・普通・やや不満・不満)。</p> <p>【評価方法】 筆記試験。1,000字の論述を課する (90%) 提出物：試験前に受講者各自の「青少年問題」 (10%) 欠席回数×(-2)点</p>						
注意事項	参考図書は各回ごとに指示する						

授 業 回 数 別 教 育 内 容

1 回	<p>【ガイダンス】教育目標、教育方法、単位認定、半期の講義計画について予告する。</p>
2 回	<p>【授業内容】社会教育とは 近年は生涯学習概念が世の中を席卷し社会教育の影がすっかり薄くなった。生涯学習と社会教育の関係について考える。</p>
3 回	<p>【授業内容】青少年というライフステージ 青少年とは何歳から何歳までのことであろうか。またどのようなことを学習するステージであろうか。</p>
4 回	<p>【授業内容】青少年の学び 学習とはやらされるのではなく自ら学ぶことである。学習によって得られる喜びや充実感が私たちの生活を豊かにする。今後は児童生徒を対象とした生涯学習・社会教育への意識啓発が必要である。</p>
5 回	<p>【授業内容】青少年とスポーツ スポーツには私たちの心や生活を豊かにする様々な力が秘められている。その取り組み方も選手としてプレーする、ファンやサポーターとして観戦する、自分の健康増進のために楽しむなど様々なスタイルがある。</p>
6 回	<p>【授業内容】青少年と文化芸術 文化芸術は私たちに感動や精神的な安らぎをもたらすとともに、生活に潤いを与えてくれる。人間は少年期に文化芸術に出会いやがて家庭で、指導者として、あるいは職業として人間関係が希薄化している現代において文化芸術の役割はますます重要になっている。</p>
7 回	<p>【青少年への学習支援】 青少年期は自立のための準備期間であるが、社会的自立のための力は学校の勉強だけでは身につけることはできない。職場体験など幅広い体験活動が必要である。</p>
8 回	<p>【青少年と公民館】 一般に公民館は講座を行ったり、会議室を貸したりする施設とされているが、地域の特性や課題をとらえ、ネットワークづくりをする拠点としての役割も期待されている。</p>

9 回	<p>【授業内容】 青少年と図書館 図書館は社会教育施設である。図書館の仕事は単なる資料の貸し出し業務にとどまらない。「こういうことが知りたいのだが」といった質問に答えるレファレンス業務や子どもへの読み聞かせなどの啓発活動もある。</p>
10 回	<p>【青少年と地域活動】 平成10年に特定非営利活動促進法が施行されてから特定非営利活動法人いわゆるNPO法人が注目を集めている。こうしたNPOやボランティア団体などが安定した活動を行うためには活動環境を整備することが必要である。</p>
11 回	<p>【青少年と人権教育】 めまぐるしく変化する社会環境は新たな人権問題を次々に派生させている。研修や講演会といった様々な機会を利用し、人権について学習することは自分自身の行き方を見直し、考えるきっかけを与えてくれる。</p>
12 回	<p>【青少年と環境教育】 エコカー減税、エコポイントなど環境課題に対応した取り組みが国をあげて行われている。環境課題への認識は充実してきたが、環境保全活動に積極的に取り組む人は多くない。</p>
13 回	<p>【青少年と郷土教育】 自分の住む地域を暮らしやすいものにするために地域を良くする様々な活動が求められているが、活動を活発にするにはまず地域への愛着がなければならない。そのためには郷土について知り、研究することが必要である。</p>
14 回	<p>【青少年と学校教育】 文部科学省が推進する学校支援事業は地域が学校教育を支援していくことを目的としている。これは学校を支援する大人たちの知識と経験を生かしていく試みである。</p>
15 回	<p>【青少年と家庭教育】 家庭教育は親などの保護者がその家庭において子どもに対して行う教育のことで人格を育てる基礎となり、すべての教育の出発点である。しかしはじめから家庭教育力を備えた親はいない。親も子どもの発達に応じて学習し「親育ち」していく必要がある。</p>

科目名	ライフステージと生活課題	授業回数	15	単位数	2	担当教員	尾崎聡
質問受付の方法(e-mail, オフィスアワー等) : osaki@owc.ac.jp							
教育目標と学生の学習成果	<p>【教育目標】この授業は「現代人が“ライフステージ”すなわち人生の各段階で、“生活課題”すなわちどのような発達の危機に直面するか。そしてそれら乗り越えていくなかでどのような徳を獲得し、人間的に成熟していくのか」ということについて基本的知識を社会教育という文脈において身に付けることを目標とする</p> <p>【学生の学習成果】(専門的学習成果:社会教育にたずさわる者としてのライフサイクル学・ライフヒストリー学に関する基本的な「知識・理解」、汎用的学習成果:社会人として生きていくうえでの「信念・意見・価値観・態度」)</p> <p>現代人における人生の諸段階、各段階において直面する発達の危機、危機を乗り越えたときに獲得される徳、人間的成熟について概観できるようになっている</p>						
教育方法	授業の進め方	(講義) 担当教員が準備し、進行させていく講義であるが、社会教育主事任用資格取得に特化された受講者なので対話によって各自の頭脳を活性化させながら進めていく。また毎回、積極的に画像・図像、映像を使って立体的に理解を補っていく。					
	予習・復習	1回の授業に対して予習・復習が義務付けられる。その内容については毎回の授業でポイントを示す					
	テキスト	特にテキストは指定しないが、毎回参考資料をプリントで配布する。					
学習評価の方法	<p>【達成基準】</p> <p>① 現代人における人生の諸段階、各段階において直面する発達の危機、危機を乗り越えたときに獲得される徳、人間的成熟について概観できるようになっていること</p> <p>② 人間の一生に関して、ライフサイクル学あるいはライフヒストリー学的な観点から、適切な題材を自らの力で選び、テーマ設定できるようになっていること</p> <p>以上を試験における論述で証明すること。論述は以下の観点から採点する</p> <p>1. 社会科学性(すなわち思考の客観性、社会的な関心性) 題材の選び方・題材の切り口(秀逸・良し・普通・やや不満・不満)。 記述内容(秀逸・良し・普通・やや不満・不満)。</p> <p>2. 人間学性(思考の個性、主体性、内面性) 題材の選び方・題材の切り口(秀逸・良し・普通・やや不満・不満) 記述内容(秀逸・良し・普通・やや不満・不満)。</p> <p>【評価方法】</p> <p>筆記試験。1,000字の論述を課する(90%) 提出物:試験前に受講者各自の「人生の諸段階、発達の危機、徳の獲得、人間的成熟」への興味関心の発達度を確認する(10%) 欠席回数×(-2)点</p>						
注意事項	参考図書は各回ごとに指示する						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>【ガイダンス】教育目標、教育方法、単位認定、半期の講義計画について予告する。なお幼児教育学科は最初の社会教育関係の授業なので社会教育の世界(社会教育施設、社会教育主事など)を具体例をあげて紹介する。</p> <p>【導入】「ライフサイクル」「ライフステージ」とは</p> <p>【参考映像】NHK大河『花神』(吉田松陰は人間の一生を四季に例えた)</p>
2 回	<p>【ライフサイクル、ライフステージとは】人間の一生をライフサイクル、ライフステージという視点から見ることの意味、思想性、そして可能性を探る。又、それらとは異なる視点「ライフヒストリー」についても考える。</p> <p>【参考文献】『論語』孔子、『お気に召すまま』シェイクスピア</p> <p>【参考映像】「人間 50 年…」(信長がお気に入りであった“敦盛”を見る。演ずるは『徳川の女』では加藤剛、『利家とまつ』では反町隆史など)</p>
3 回	<p>【現代人トピックス(未婚率と青年期延長)】青年後期は大人としての実力が厳しく試される時期である。それだけに挫折感、絶望感は深刻である。また人生のパートナーと出会い、子供を生し、家族を形成する人も多い。青年期の発達課題にはどんなものがあるのか。そして課題達成によってどんな「徳」が獲得されるのかを確認する。</p> <p>【参考映像】フジテレビドラマ『やまとなでしこ』(「女性の最高値(さいたかね)は 27 歳」なのか?)</p>
4 回	<p>【現代人トピックス(未婚率と青年期延長)②】</p> <p>【参考映像】NHKドラマ『トップセールス』(男は大晦日まで、女はクリスマスケーキまで…といわれた時代)</p>
5 回	<p>【青年前期の発達課題(モラトリアム、青年期と不適応、スチューデントアパシー)】青年前期は学業、恋愛、仕事探し、経済的自立…などの悩みに直面し、やがて青年後期のステージへと移行する。</p> <p>【参考映像】驚きもの木 20 世紀『もうひとりのかぐや姫』(1970 年代の日本人の青春)</p>
6 回	<p>【タナトロジー(死について考える学問)】かつては医療や福祉の現場で「死」を論ずるなど“きちがい沙汰”であった。しかし現在では医療や福祉に従事するものの必須科目になっている。</p> <p>【参考文献・参考映像】大原健士郎『おれたちは家族だ』(精神科医で終末期医療の専門家である大原氏は自らの妻を癌で失うことになり、その終末期医療のことで、同じく医師である息子と激しく対立する)</p>
7 回	<p>【老年期の発達課題】かつては老後の人生は短かかった。しかし現代人の老後は気が遠くなるほど長い。老年期の発達課題にはどんなものがあるのだろうか。</p> <p>【参考映像】NHK朝の連続TV小説『ちゅらさん』青年期に看護の道を選び、結婚・退職・育児の道を歩んでいた主人公は訪問看護師として復職する</p>
8 回	<p>【ライフヒストリー】人間の一生はライフサイクルという観点からのみでは決して解明されない。人生の一回性に注目したライフヒストリーという観点について考える。</p> <p>【参考文献】宮本常一『忘れられた日本人』岩波文庫、『自分史の作り方』猪狩章、情報センター</p> <p>【参考映像】江川が廃墟となった故郷、天竜川沿いの鉾山町を訪ねる(静岡県佐久間の少年時代－栃木県小山にて高校生怪物投手－東京六大学－江川事件…)</p>

9 回	<p>【家族史(家族のライフサイクル)】「ライフサイクル」は個人にのみ適用されるものではない。「家族」「一族」といった人間集団を例にとり、その盛衰、興亡の歴史を考える。</p> <p>【参考文献】『ブッデンブローック家の人々』T. マン</p> <p>【参考映像】小説・テレビドラマ『大草原の小さな家』</p>
10 回	<p>【家族史(家族のライフサイクル)②】</p> <p>【参考文献】『ブッデンブローック家の人々』T. マン</p> <p>【参考映像】大草原の小さな家の実話『ローラとローズの物語』</p>
11 回	<p>【女性のライフサイクル】人間の一生の流れは性別によっても大きく異なる。「性役割」をキーワードに、女性特有のライフサイクルの存在について考える。</p> <p>【参考文献】『ジェンダーの社会学』江原由美子、せりか書房</p> <p>【参考映像】NHKドラマ「蔵」宮尾登美子原作</p>
12 回	<p>【アイデンティティーの確立と人生】人間の一生は「自分とは何か」「自分らしく生きるとは」などを問いつける過程である。あらゆる人間科学の基礎概念である「アイデンティティー」をキーワードに人間の一生を概観する。</p> <p>【参考文献】『アイデンティティーの心理学』鏑幹八郎、講談社現代新書</p> <p>【参考映像】テレビドラマ『北の国から』</p>
13 回	<p>【思春期の発達課題】思春期の発達課題にはどんなものがあるのか。そして課題達成によってどんな徳が獲得されるのかを確認する。「思春期における性の意識と行動」思春期というライフステージは近代になって認識されるようになった。「身体的性成熟」と「精神的性成熟」をキーワードに近代人の人生の難関である思春期を考える。自分の少年時代の人間形成を美しく描写し、広く国民にしたしまれている井上 靖作品をとりあげる。</p> <p>【参考文献・参考映像】『あすなる物語』井上靖『しろばんば』『夏草冬涛』井上靖</p>
14 回	<p>【東洋のライフサイクル(孔子・論語のライフサイクル)】</p> <p>【参考文献・参考映像】NHK『坂の上の雲』</p>
15 回	<p>【民俗学と現代科学とライフサイクル】: 出産、育児、子供組、若者組、成年式、結婚式、隠居、病気、葬式、墓制などの通過儀礼、行事には日本人の心意の根底にかかわるきわめて重要な課題がある。偶然にも近年の人間観では母親のお腹の中にいる胎児の頃から人生が始まっていると考える。その胎児期から乳幼児・児童期まで、きわめて簡単にではあるが、子ども時代の発達課題にはどんなものがあるのか。そして課題達成によってどんな「徳」が獲得されるのかを確認する。</p> <p>【参考文献】『日本人の一生』牧田茂、講談社学術文庫『厄年の科学』金子仁、光文社</p> <p>【参考映像】『千と千尋の神隠し』</p>

科目名	社会教育行政	授業回数	15	単位数	2	担当教員	福野裕美
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) :							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>社会教育行政の理論的・実践的な諸問題を取り上げながら、以下のような基礎的知識の定着を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育行政の意義や役割、組織形態 ・社会教育に関する法令 ・社会教育施設および社会教育職員の役割 ・生涯学習政策と公共性の問題 <p>学生の学習成果 :</p> <p>専門的学習成果として、教育目標に掲げる項目の基礎的知識を修得する。汎用的学習成果として、基礎的知識を用いて論理的に思考する力、自分の考えを適切な表現で的確に伝えると同時に他者の考えを理解するコミュニケーション能力を育成する。</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>1. 授業は講義形式を主体として行う。 2. 定期的に小テストや課題を課し、受講生の理解を深める。</p>					
学習評価の方法	予習・復習	1回の授業に対して予習・復習が義務付けられる。その内容については、毎回の授業で示す。					
	テキスト	佐藤晴雄著『生涯学習概論』学陽書房、2007年。					
学習評価の方法	<p>達成基準：下記の学習成果について、「①：②：③：④：⑤＝1：1：2：1：1」の比重をかけて評価する。</p> <p>①社会教育行政の意義や役割を理解する。 ②国や地方公共団体の社会教育行政組織の体制を理解する。 ③地域に根ざした生涯学習施設のあり方および職員の役割について考える。 ④生涯学習政策と公共性の問題について認識する。 ⑤法令や統計など事実に基づく思考の基礎を形成する。</p> <p>学習評価は、試験 (60%)、小テスト (20%)、課題 (20%) によって行う。なお、遅刻 2 回につき欠席 1 回とみなし、欠席は 1 回につき減点 1 とする。</p>						
注意事項	<p>参考図書等</p> <p>授業中に適宜紹介する。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	オリエンテーション 本講義のルールと評価方法
2 回	社会教育行政の役割と組織 【復習】教科書 127-132 頁
3 回	行政が展開する生涯学習振興策 【復習】配布プリント
4 回	国の社会教育行政組織と所掌事務 【復習】教科書 133-139 頁、配布プリント
5 回	地方公共団体の社会教育行政組織と所掌事務 【復習】教科書 133-139 頁、142-151 頁、配布プリント
6 回	社会教育財政の意義、社会教育費 【復習】配布プリント
7 回	生涯学習と社会教育職員 【復習】教科書 153-167 頁
8 回	生涯学習と社会教育施設①～公民館～ 【復習】169-174 頁、配布プリント
9 回	生涯学習と社会教育施設②～博物館～ 【復習】教科書 177-180 頁、配布プリント
10 ・ 11 回	生涯学習と社会教育施設③～図書館～ 【復習】教科書 175-177 頁、配布プリント 【課題】ビデオ教材を視聴し、小レポートにまとめる。
12 回	生涯学習と社会教育施設④～その他、青少年教育施設、女性教育（女性関連）施設など～ 【復習】教科書 180-187 頁、配布プリント
13 回	NPO が拓く学びのネットワーク（1） 【復習】配布プリント
14 回	NPO が拓く学びのネットワーク（2） 【復習】配布プリント
15 回	試験対策 これまでの学習内容の総復習

科目名	図書館概論	授業回数	15	単位数	2	担当教員	石田 常 亜
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : M棟 408 (420-2666)							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>図書館の機能や、社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別、図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係、今後の課題と展望等の基本を解説する。</p> <p>学生の学習成果 :</p> <p>よく利用している近くの公共図書館、本学あるいは他の大学図書館の見学や、利用を体験しながら、図書館についての理解を深める。 ▽</p>						
教育方法	授業の進め方	<p>(講義)・演習・実験・実習・実技)</p> <p>テキスト及び適宜作成したプリント、資料により進める。</p>					
	予習・復習	授業の冒頭、前回の講義内容を復唱しながら、新しい講義へと進む。					
	テキスト	塩見 昇「図書館概論」(新訂版) 日本図書館協会					
学習評価の方法	全講義終了後、単位認定のための筆記試験を実施する。						
注意事項	<p>参考図書等</p> <p>日本図書館協会図書館政策特別委員会「公共図書館の任務と目標 解説」(改訂版増補) ▽日本図書館協会 ▽</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容

1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・「図書館学の科目」に関する、各科目授業の進め方について ▪ 図書館法の概要、法的基盤について ▪
2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・館種別図書館の現状と動向について
3 回	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の基本要素と機能 ▪ (1) 図書館資料、予算 ▪
4 回	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の基本要素と機能 ▪ (2) 図書館職員 (3) 図書館施設 ▪
5 回	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の歴史：日本、外国 ▪
6 回	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館に関する諸基準：日本、外国
7 回	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の理念 ▪ (1) 図書館の自由に関する宣言
8 回	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の理念 ▪ (2) 図書館長の倫理綱領 ▪

9 回	<ul style="list-style-type: none"> ・公共図書館の成立と展開 ▪ 公立（共）図書館の任務と目標
10 回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中の公共図書館、文庫活動
11 回	<ul style="list-style-type: none"> ・類縁図書館とのネットワーク ▪ （1）学校図書館 ▪
12 回	<ul style="list-style-type: none"> ・類縁図書館とのネットワーク ▪ （2）大学図書館 （3）専門図書館 （4）その他 ▪
13 回	<ul style="list-style-type: none"> ・国立国会図書館との連携
14 回	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館職員の役割、資格
15 回	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の今後の課題、電子図書館

科目名	ボランティア理論	授業回数	15	単位数	2	担当教員	坂元 昌
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) :							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>ボランティア活動に関わる際に必要となる理論を身につけることを目標とする。 実際に展開されるボランティア活動の事例について議論することにより、現代社会が抱える課題と、その解決に向けてのボランティアの在り方を探る。</p> <p>学生の学習成果 :</p> <p>① ボランティア活動の意義と問題点を理解できる。 ② テーマにそった、議論ができる。</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>授業は、ボランティア活動の事例の分析とディスカッションにより進める。 授業では、「助けるー助けられる を考える」「施しとボランティア」「開発援助とボランティア」「ボランティア・コーディネート」のテーマを設定し、それぞれのテーマごとに具体的なボランティア活動についての議論や発表を行う。 毎回授業の終わりに、小レポートを作成する。 受講生には発表を課す場合がある。</p>					
	予習・復習	<p>授業に関連するボランティア活動について、調べ、まとめること。 予習・復習の詳細については、授業で指示する。</p>					
	テキスト	<p>指定なし</p>					
成績評価の方法	<p>① 小レポートの内容 (30%) ② 期末試験の成績 (70%)</p> <p>以上2点から評価する。</p>						
注意事項	<p>参考文献は、授業のなかで随時紹介する。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>【イントロダクション】</p> <p>授業の目的と、授業の流れについて説明する。 ボランティアについてのイメージについて議論し、ボランティアについて考える導入とする。</p>
2 回	<p>【ボランティアとは】</p> <p>ボランティアに関する基本的な概念を整理し、日本におけるボランティアの歴史について概観する。</p>
3 回	<p>【ボランティアの有効性】</p> <p>なぜボランティアなのか、社会におけるボランティアの必要性と有効性について考える。</p>
4 回	<p>【ボランティアの課題】</p> <p>ボランティアは有効であるとされる一方、その問題点が指摘される。 ボランティアの課題と可能性について概観し、議論する。</p>
5 回	<p>【「助ける・助けられる」を考える①】</p> <p>実際のボランティア活動の例を紹介し、助ける・助けられる関係からボランティアの有効性と課題について具体的に考える。</p>
6 回	<p>【「助ける・助けられる」を考える②】</p> <p>障害者支援・障害学生支援等の事例から、助ける・助けられる関係の在り方について議論する。</p>
7 回	<p>【「助ける・助けられる」を考える③】</p> <p>障害者支援・障害学生支援等の事例から、助ける・助けられる関係の在り方について議論する。</p>
8 回	<p>【施しとボランティア①】</p> <p>施しとボランティアについて、「発展途上国」と呼ばれる国への援助の背景にある文化的価値観についての議論から考える。</p>
9 回	<p>【施しとボランティア②】</p> <p>施しとボランティアについて、「発展途上国」と呼ばれる国への援助の背景にある、文化的価値観についての議論から考える。</p>

10 回	<p>【開発援助とボランティア①】 国際協力や開発援助など、国際的なボランティア活動の例を紹介し、その成果と課題について議論する。</p>
11 回	<p>【開発援助とボランティア②】 国際協力や開発援助など、国際的なボランティア活動の例を紹介し、その成果と課題について議論する。</p>
12 回	<p>【ボランティア・コーディネート①】 ボランティア活動の計画から実施までをコーディネートするシミュレーション演習を行う。</p>
13 回	<p>【ボランティア・コーディネート②】 ボランティア活動の計画から実施までをコーディネートするシミュレーション演習を行う。</p>
14 回	<p>【総括ディスカッション①】 様々なボランティア活動の特徴と課題を理解した上で、ボランティアが社会に果たす役割について改めて検討する。</p>
15 回	<p>【総括ディスカッション②】 様々なボランティア活動の特徴と課題を理解した上で、ボランティアが社会に果たす役割について改めて検討する。</p>

科目名	社会との接続	授業回数	15	単位数	2	担当教員	竹内 博
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) :							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>大学で習得した学習成果を認識し、卒業後のキャリアで自信をもって能力発揮ができる道筋を学び、社会や職場のニーズとのミスマッチ避けるべき経済活動の基盤とも言える企業活動を理解し、社会的使命感と職業意識を養うことを目的とする。</p> <p>学生の学習成果 :</p> <p>実業社会における職務遂行基礎能力として求められている対人コミュニケーション、課題発見と実行力、計画化 (立案と管理、評価) 等総合的人間力育成を目的としている。</p>						
教育方法	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>1. 授業は講義と演習を交互に行い、各テーマの予習、考察、討論、レポート作成、及び発表に重点を置く。</p> <p>2. 本講座の核となるのは開講される3年次の夏期休暇中に実施されるインターンシップ (企業研修) である。本研修により大学 (教育)、企業 (ビジネス)、地域社会間の相互関係、企業組織と人事管理の基礎を実践的に学び、学習と就職の目的意識を養う。</p>					
	予習・復習	<p>1. 予習として毎回、課題として提示されるテーマについて事前に研究し、授業に出席すること。</p> <p>2. 復習として講義テーマについて課題を発見し、研究した成果をレポートにまとめること。</p>					
	テキスト	<p>1. 毎回、講義テーマを解説し、授業プログラムを教示した講義資料を配布。</p> <p>2. 市場占有率 (2009年版日本経済新聞社発行)。</p>					
学習評価の方法	<p>1. 企業と社会の関係を理解し、企業や社会に貢献出来る人材も理解と自己目的意識習得。</p> <p>2. 企業研究を通して事業経営の組織、人事管理の基礎的理解。</p> <p>3. インターンシップによる企業人、社会人としての目的意識、自覚習得。</p> <p>【評価方法】</p> <p>1. インターシップ (職場実習) (60%)</p> <p>2. 課題に対するレポートと討論 (10%)</p> <p>3. 期末試験 (30%)</p>						
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習目標の達成と学習成果には毎回講義における予習、復習は欠かせない。 ・ 毎回の授業テーマ、課題については前の週に事前ガイダンスを行う。 						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>オリエンテーション：“社会との接続”－大学、社会、企業間インターフェイス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介：目標と進路、目標達成の為の選択 ・クラス討論：日本の現状と将来、社会人としての社会貢献、進路の選択 ・社会人としての役割：企業の事業活動と社会的貢献
2 回	<p>テーマ：“企業（会社）と社会” 企業活動と求められる人材－事業と組織（ヒト、モノ、カネと情報）、人事と経営管理、生産と販売、営業とマーケティング、事業開発と研究開発</p> <p>課題（予習・復習）：挑戦したい仕事、職種と企業－会社と事業活動、業種と組織の調査と情報収集</p>
3 回	<p>課題発表と討論：各自調査した結果の発表とクラス討論</p> <p>留意すべきポイント：事業目的遂行の為の組織、また事業経営・組織の社会的貢献の実態と課題発見</p>
4 回	<p>テーマ：業種別企業組織の実態と在り方、業種別社会的貢献の実態と課題</p> <p>レポート提出：自分の目標選択と従事したい職業の社会的貢献について</p>
5 回	<p>テーマ：企業のグローバル化（国際化）－組織と人材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本のグローバル企業の実態 ・グローバル企業への道とその要件－製品、規制など、そして求められる人材 ・グローバルビレッジ（地球村）での国際企業の役割 ・国際競争下での国際的共存共栄－合弁と人材交流 <p>課題：グループ別による業種別国際企業活動の調査－組織、商品、人材、知識、技能</p>
6 回	<p>課題発表と討論：グループによる調査結果発表とクラス討議</p> <p>留意すべきポイント：組織の実態、求められる人材、知識、技能、企業の国際的役割</p> <p>レポート提出：グループ別発表と討論のまとめと感想</p>
7 回	<p>テーマ：企業活動の活性化への道－勇気ある挑戦と事例研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業開発、商品開発、マーケティング ・ベンチャー企業 ・Incubator vs. Entrepreneur ・リスク マネジメント
8 回	<p>テーマ：前回7回の続いて、起業の現状と社会的役割の考察と事例研究の発表</p> <p>課題：グループ別による起業家（Entrepreneur）への挑戦－創造と勇気</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品の発掘と選択（社会ニーズ調査と Feasibility Study など） ・マーケティング ・Partnership ・事業計画など
9 回	<p>テーマ：起業へのアプローチ－起業と大衆ニーズ、起業手法（米国の事例から学ぶ）</p> <p>課題中間発表：調査段階での問題討議</p>
10 回	<p>課題発表と討論：8回目のテーマについてのグループ別発表とクラス討議</p> <p>レポート提出：グループ別発表のレポートと感想</p>
11 回	<p>テーマ：ビジネスモデルとマナー：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しいビジネス－ビジネスモデル ・次世代のビジネス ・社会的意義と経済的貢献と課題（法的整備）

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
12 回	<p>テーマ：Internship（職場実習研修）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目的と課題意識 ・ 教育的、社会的な位置付けと効果 ・ 本学の Internship program
13 回	<p>テーマ：Internship program（事前学習と事後学習）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 視点—商品・サービスのユーザー（消費者）からプロデューサー（生産者）の立場 ・ ビジネスマナーと motivation ・ 会議議事進行—Discussion, presentation, negotiation, 文書、総務、経理、事務管理 ・ 事後報告業務ガイダンス—業務日誌、実習報告書など
14 回	<p>テーマ：“社会との接続” 総括—目的意識、職業と人生、社会的貢献と責</p> <p>総括討論：各自社会人、職業人としての Commitment の発表と抱負</p> <p>Internship への期待と挑戦</p>
15 回	<p>本講座の総括としてグループ討論とレポート作成</p> <p>テーマ：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本講座から何を学び、何を発見したか 2. 各学科における履修科目から学べ、習得したこと—知識、技能等の review 3. インターンシップに何を学び、何を期待するか（将来のキャリアー設計） 4. 各人の目指す業界・業種の企業研究レポート提出

科目名	社会福祉概論	授業回数	15	単位数	2	担当教員	赤木正典
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) :							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：管理栄養士として必要な社会福祉の知識をトータルに修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪1、現代社会における社会福祉の意義と役割を学ぶ。 ▪2、社会福祉8法の理念と福祉サービスについて学ぶ。 ▪3、社会福祉の制度、機関、福祉従事者の専門性について学ぶ。 ▪4、社会福祉援助技術についても若干学ぶ。 ▪ <p>学生の学習成果：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉を理解し、児童、障害者、高齢者、母子家庭など社会的弱者に対する理解力を獲得する。 2. 社会福祉を理解することで、保健・医療・福祉の連携、関連サービスを理解する ▪。 						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>法律、制度、政策、思想などが主要な内容となるので、できるだけ具体例とか、日常の中でどのような形でその制度が利用され、役立っているのか分かりやすく説明する。また新聞、テレビ等の社会福祉の報道番組、記事を紹介し、福祉を身近なものとして感じ関心を持つようにしてもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 学生の理解度と関心を常に見ながら講義する。 ▪ 	<p>予習・復習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 次回授業するところを3頁位は、読書してくるよう指示する。 ▪ 2. 2回に1回位、講義したところから課題を出してみる。 ▪ 	<p>テキスト</p> <p>野口勝巳・赤木正典著:2008「社会福祉論」建帛社 ▪</p>			
学習評価の方法	<p>出席状況 (20%) とレポート (20%) それに定期試験の結果 (60%) でトータルに成績評価をする。学習のポイント 法律、制度、思想等が多いので馴染みにくいと思う。授業中に大事なところは指摘しているし、テストの前に出題傾向について話す。 ▪</p> <p>欠席は1回につき8点の減点を行う。ただし、欠席の届け出がある場合には4点の減点とする。</p>						
注意事項	<p>参考図書等</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 厚生統計協会:2010「国民の福祉の動向」厚生統計協会 ▪ ▪ 山縣文治著:2010「社会福祉用語辞典」ミネルヴァ書房 ▪ 						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>1. 現代と社会福祉</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 21世紀の福祉の目標 (2) 21世紀の福祉の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会と貧困 ・ノーマライゼーション ・福祉の国際協力
2 回	<p>2. 社会福祉の基礎理解</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 社会福祉の概念：憲法25条について、広義の社会福祉と狭義の社会福祉 (2) 社会福祉の精神と機能：生存権の保障、人間愛について
3 回	<ul style="list-style-type: none"> (3) 社会福祉の主体、対象、方法 (4) 社会福祉の歴史 <ul style="list-style-type: none"> ・日本における歴史 ・欧米における歴史
4 回	<p>3. 社会福祉の法律と制度</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 社会福祉の法制：社会福祉の法の歴史的背景と法の意義について (2) 社会福祉の機関：国の行政機関、地方公共団体の行政機関
5 回	<ul style="list-style-type: none"> (3) 社会福祉の財政 <ul style="list-style-type: none"> ・国や地方公共団体が直接行うか、民間に委託して行う社会福祉事業が拡大し、その費用の大部分が公費で賄われている。 ・(4) 共同募金、社会福祉法人
6 回	<p>4. 社会福祉に携る人々</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 社会福祉機関従事者 (2) 社会福祉従事者の専門性とは ・(3) ボランティアについて
7 回	<p>5. 高齢者福祉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(1) 高齢者の生活保障：経済・医療・福祉サービス・就労・レク等々の保障は (2) 高齢化社会と老人福祉：人口高齢化と高齢社会・介護問題の現状と課題
8 回	<ul style="list-style-type: none"> (3) 老人福祉サービスの歴史と現状 <ul style="list-style-type: none"> ・ 老人福祉の基本理念 ・ 福祉サービスの概念

9 回	6. 障害者福祉 ▪ (1) 障害者と障害者問題 ▪ (2) 身体障害者のための福祉対策 ▪ 在宅福祉対策と施設福祉対策の特徴について ▪
10 回	7. 知的障害者福祉：知的障害者とは、知的障害者の現状、障害者のための福祉対策 ▪8. 精神障害者福祉：精神障害者とは、精神障害者の現状と福祉対策 ▪
11 回	9. 児童福祉 ▪ (1) 児童福祉の理念、現代の社会と児童問題 ▪ (2) 児童福祉の行政機関と児童福祉施設 ▪ (3) 児童福祉の課題 ▪
12 回	10. 母子福祉・女性福祉 ▪ (1) 母子保健と社会福祉 ▪ (2) 母子および寡婦世帯と社会福祉 ▪ (3) 保護を要する女性の福祉 ▪
13 回	11. 公的扶助（貧困対策） ▪ (1) 狭義の公的扶助 ▪ (2) 生活保護の内容と現状 ▪
14 回	(3) 実施機関と生活保護基準 ▪ (4) 障害者の自立援助の一つの方法 ▪ (5) 親族扶養優先に伴う問題 ▪ (6) 公的扶助の今後の役割と課題 ▪
15 回	単位認定試験：認定試験を実施する。 ▪ ・範囲 14回学習した中から、テスト問題を出題する。

科目名	教育心理学(教職)	授業回数	15	単位数	2	担当教員	今野 仁博
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : konno@owc.ac.jp, OH:随時							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標： 教育心理学は、教職を目指すうえで必須の講義である。担当教科を指導するだけでなく、生徒の精神的な発達や人間としての成長を育み、促すことも教師の重要な役割となる。この講義では、日々の教育活動の基礎となる心理学的知識を身につけることを目的とする。</p> <p>学生の学習成果：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日々の教育活動の基礎となる心理学的知識を身につける ・ 心理学的な観点から、生徒児童の行動を理解することができる ・ 教育活動において、正しく教育評価を行うことができる ・ 教師としての使命感や倫理観を身につける 						
教育方法	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主として講義形式で行うが、受講者の理解を促進するため、定期的に学習内容に関する小テストを課す ・ 必要に応じて、授業時間外に取り組むレポートを課す 					
	予習・復習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める ・ 毎授業回後に復習を求める。その際、提出課題を課す場合がある 					
	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鎌原雅彦・竹綱誠一郎 2005 やさしい教育心理学[改訂版] 有斐閣 					
学習評価の方法	<p>以下の3つの学習成果について、その獲得度合を量的に評価する。その際、授業回数等を勘案し、およそ①50%、②25%、③15%、④10%の比重をかける。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 日々の教育活動の基礎となる心理学的知識を身につける ② 心理学的な観点から、生徒児童の行動を理解することができる ③ 教育活動において、正しく教育評価を行うことができる ④ 教師としての使命感や倫理観を身につける <p>評価の実施は、①～③について小テスト及び定期試験の得点を総合して行う。また、受講態度に問題があったものは、教師としての使命感や倫理観が十分ではないとして、④から適宜減ずる。</p>						
注意事項	<p>参考図書等：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中澤潤(編) 2008 よくわかる教育心理学 ミネルヴァ書房 						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>【オリエンテーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義の目標・進め方・成績評価の方法に関する説明 ・ 本講義で修得してほしい事柄に関する説明 ・ 教育心理学の目的 <p>復習事項：講義内容で理解不十分な箇所・不明な箇所をまとめてくる</p>
2 回	<p>【効果的な授業を行うための基礎知識】</p> <p>① 記憶の仕組み(1)―記憶とは何か？</p> <p>予習事項：教科書 P. 1～8 をよく読んでおく</p> <p>復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく</p>
3 回	<p>② 記憶の仕組み(2)―思い出すことと忘れないこと</p> <p>予習事項：教科書 P. 9～19 をよく読んでおく</p> <p>復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく</p>
4 回	<p>③ 学ぶことと考えること―思考の仕組み</p> <p>予習事項：教科書 P. 21～43 をよく読んでおく</p> <p>復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく</p>
5 回	<p>④ ほめることの大切さ(1)―古典的条件づけによる学習</p> <p>予習事項：教科書 P. 45～52 をよく読んでおく</p> <p>復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく</p>
6 回	<p>⑤ ほめることの大切さ(2)―道具的条件づけによる学習</p> <p>予習事項：教科書 P. 52～73 をよく読んでおく</p> <p>復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく</p>
7 回	<p>⑥ 「やる気」を考える(1)―動機づけと欲求不満</p> <p>予習事項：教科書 P. 93～99 をよく読んでおく</p> <p>復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく</p>
8 回	<p>⑦ 「やる気」を考える(2)―学習性無力感</p> <p>予習事項：教科書 P. 76～93 をよく読んでおく</p> <p>復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく</p>

9 回	<p>【生徒への理解を深める】</p> <p>① 人間の発達を考える(1)―発達とは何か？ 予習事項：教科書 P. 174～189 をよく読んでおく 復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく</p>
10 回	<p>② 人間の発達を考える(2)―学習の臨界期と敏感期 予習事項：教科書 P. 190～195 をよく読んでおく 復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく</p>
11 回	<p>③ 知的発達のメカニズム―知能とその発達 予習事項：教科書 P. 198～219 をよく読んでおく 復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく</p>
12 回	<p>④ 人格発達の基礎―人格の発達段階 予習事項：教科書 P. 222～244 をよく読んでおく 復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく</p>
13 回	<p>【生徒を正しく理解するために】</p> <p>① 学級という社会―学級集団からの生徒の理解 予習事項：教科書 P. 102～127 をよく読んでおく 復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく</p>
14 回	<p>② 教育成果の評価―児童・生徒を評価する 予習事項：教科書 P. 148～172 をよく読んでおく 復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく</p>
15 回	<p>【教師のバーンアウトを防ぐために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストレスとストレスマネジメント <p>予習事項：なし 復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく</p>

科目名	社会心理学	授業回数	15	単位数	2	担当教員	今野 仁博
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : konno@owc.ac.jp, OH: 随時							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>人は「社会的動物」と呼ばれるように、さまざまな関係性の中で生きる存在である。この講義では、人と社会との関わりという点から人の社会的行動について解説する。</p> <p>学生の学習成果 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人の社会的行動について基礎的知識を身につけ、自身の今後の生活における様々な場面で活かすことができる ・ 汎用的学習成果として、特に人間関係における問題解決力・他者理解力を身につけるとともに、社会人としての責任を果たす上での使命感や倫理観を身につける 						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主として講義形式によって行うが、受講者の理解を促進し、学習成果を確認するために、講義中に小テストを課す ・ やむを得ない理由で小テストを受けられなかった者を対象に、必要に応じて授業時間外に取り組むレポートを課す <p>予習・復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予習 : 毎授業前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める ・ 復習 : 毎授業後に、当該授業の内容に関する復習を求める <ul style="list-style-type: none"> ➤ 小テストでは、授業における「重要な部分」を出題する。どの内容が重要であったかを毎授業後に確認し、その内容について理解しておくことを求める。また、授業内容を自分自身に当てはめたり現実の場面に当てはめたりして考えることを求める。したがって、授業内容を理解していない場合には回答することが困難であることが予想される。十分に復習を行うこと。 <p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料を配布し、市販のテキストは使用しない 					
学習評価の方法	<p>以下の3つの学習成果について、その獲得度合を量的に評価する。その際、授業回数を勘案し、およそ①50%、②30%、③20%の比重をかける。</p> <p>⑤ 人の社会的行動について基礎的知識を身につけ、自身の今後の生活における様々な場面で活かすことができる</p> <p>⑥ 汎用的学習成果として、特に人間関係における問題解決力・他者理解力を身につける</p> <p>⑦ 社会人としての責任を果たす上での使命感や倫理観を身につける</p> <p>なお、評価の実施は、①②について主に定期試験および講義中の小テストによって行う。また、受講態度に問題があったものは、社会人としての使命感や倫理観が十分ではないとして、③の比重から適宜減点する。</p>						
注意事項	<p>参考図書等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 池上知子・遠藤由美 1998 グラフィック社会心理学 サイエンス社 ・ 堀洋道・山本真理子・吉田富二雄 1997 新編社会心理学 福村出版 						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>【オリエンテーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義の目標・進め方・成績評価の方法に関する説明 ・ 本講義で修得してほしい事柄に関する説明 ・ 社会心理学の目的 <p>復習事項：講義内容で理解不十分な箇所・不明な箇所をまとめてくる</p>
2 回	<p>【個人内過程の社会心理学①】</p> <p>なぜ？どうして？の心理(1)―原因帰属</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 原因帰属の理論 ・ 原因帰属と動機づけ <p>予習事項：「遅刻をしたときの言い訳」を3種類考えてくる</p> <p>復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく</p>
3 回	<p>【個人内過程の社会心理学②】</p> <p>なぜ？どうして？の心理(2)―帰属のバイアス・認知のバイアス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 原因帰属のゆがみ ・ なぜ占いは当たる気がするのか <p>予習事項：占いは当たると思うかどうか、自分の意見を考えておく</p> <p>復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく</p>
4 回	<p>【個人内過程の社会心理学③】</p> <p>他者の意見を変えるのは難しい(1)―態度変容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 態度とは何か？ ・ 態度変容の理論 <p>予習事項：「喫煙者にタバコの手を説明し、禁煙してもらう方法」を考えておく</p> <p>復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく</p>
5 回	<p>【個人内過程の社会心理学④】</p> <p>他者の意見を変えるのは難しい(2)―説得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 説得的コミュニケーションとは何か？ ・ 説得に関わる様々な要因 <p>予習事項：『新開発！何でも落ちる洗濯洗剤メガクリーン』を訪問販売して、買ってもらうための商品説明の方法」を考えておく</p> <p>復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく</p>
6 回	<p>【第1回小テスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第2回～第5回までの4回分の内容について小テストを実施する <p>【対人行動の社会心理学①】</p> <p>人とコミュニケーションする(1)―自己表出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分をさらけ出す ・ 自分を演出する <p>予習事項：自分は人に相談する方がされる方が、これまでの経験を振り返っておく</p> <p>復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく</p>
7 回	<p>【対人行動の社会心理学②】</p> <p>人とコミュニケーションする(2)―非言語コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関係の進展とコミュニケーション ・ 代表的な非言語コミュニケーション <p>予習事項：ジェスチャーを使うと、「何」が相手に伝わるのかを考えておく</p> <p>復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく</p>

8 回	<p>【対人行動の社会心理学③】 友達付き合いの社会心理学—友人関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友情とは何か？ ・ 対人関係の親密化過程 <p>予習事項：自分自身のこれまでの友人関係を振り返り、どんな特徴があるか考えておく 復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく</p>
9 回	<p>【対人行動の社会心理学④】 人に魅力を感じる心理—対人魅力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対人魅力とは何か？ ・ 対人魅力に関わる要因 <p>予習事項：恋愛相手は外見で選ぶか性格で選ぶか、それはなぜかを考えておく 復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく</p>
10 回	<p>【第2回小テスト】 ・ 第6回～第9回までの4回分の内容について小テストを実施する</p> <p>【集団行動の社会心理学①】 他人がいることで変化する行動(1)—集団の影響過程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 規範と同調 ・ 権威への服従 <p>予習事項：「みんながやっているので流されてやってしまった経験」を思い出しておく 復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく</p>
11 回	<p>【集団行動の社会心理学②】 他人がいることで変化する行動(2)—集団と個人の関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的抑制と社会的促進 ・ 集団の中での課題遂行 <p>予習事項：「グループで作業をするときに、自分だけ手を抜いてしまったり、手を抜く人を見て嫌な気分になったりした経験」を思い出しておく 復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく</p>
12 回	<p>【集団行動の社会心理学③】 みんなで何かを決めるとき—集団意思決定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リスクと集団成極化 ・ リーダーシップ <p>予習事項：リーダーとして人を引っ張っていくときに必要な要素は何かを考えておく 復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく</p>
13 回	<p>【集団行動の社会心理学④】 うわさ話の心理学—流言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 集合行動と流言 ・ 流言伝達の規定因 <p>予習事項：最近聞いた「うわさ話」を思い出しておく 復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく</p>
14 回	<p>【第3回小テスト】 ・ 第10回～第13回までの4回分の内容について小テストを実施する</p> <p>【情報社会とニセ科学】 無邪気が差別につながる血液型性格判断</p>
15 回	<p>【まとめ】 これまでの講義内容を振り返り、不足のある部分について補足するとともに、社会心理学の理論や概念と、日常生活での行動との関係についてまとめる。</p>